

令和7年度 第2回生坂村脱炭素先行・再エネ推進事業評価会議 会議録

日 時：令和8年1月16日（金）13時30分

場 所：生坂村役場2階 第2会議室

（１）協議事項

【令和7年度事業進捗状況の報告】

令和7年度に実施した各事業の進捗状況（①PPA事業②省エネ機器等導入補助③木質バイオマスストーブ導入補助④公共施設 省エネ機器導入・LED化改修⑤民家断熱改修補助⑥公共施設等へのEV充放電器導入⑦公用車のEVカーシェアリング⑧やまなみ荘へのボイラー・チップ庫新設⑨（仮称）生坂村小水力発電所建設⑩自営線マイクログリッド構築⑪村営 ZEH 住宅建築⑫事業広報⑬中間評価実施時点までの「実質ゼロ」の達成率）について事務局より説明。

（２）評価委員による講評（質問・意見）

【質問】

- 一般家庭への太陽光パネル設置目標に対する進捗について質問があり、国への提案段階では、民家太陽光発電を427件設置する計画としていたが、その後の説明会や調査を踏まえ、約300件を目標に据え達成を目指すと回答。
- ㈱いくさかてらすの電気料金について、個別のシミュレーションは可能かと質問があり、各家庭の利用状況を基に算定可能であり、実績として他社プランより安くなる傾向があること、また再エネ賦課金がかからないメリットがあることを説明。
- 村独自のEV購入補助を出す予定はあるかと質問があり、現在の環境省補助事業の枠組みでは難しいが、他自治体の事例も参考にしつつ、今後別の観点から検討する余地があると回答。
- 薪ストーブの薪の供給状況について質問があり、現在シルバー人材センターや森林公園管理組合、個人の方が供給していると回答。今後、需要が増えた場合でも、新たな大規模投資ではなく、既存の取り組みを広げる形で対応し、村内循環型のエネルギーとして育てていく方針と説明。

- 環境省による中間評価ヒアリングでの手応えはどうかと質問があり、日程の都合で2月3日にオンラインで実施予定であると回答。

【意見】

- EVの普及には「ガソリン代と比較してどれだけ安いのか」という具体的で実利的なPRが必要。例えば「〇km走って〇円程度」といった印象に残るような表現を用いるのはどうか。
- EVやPHEV（プラグインハイブリッド車）は、燃料費の削減やCO₂排出削減の面で大きな利点がある。一方で、航続距離や充電インフラへの不安、カーシェアの利用拡大が進んでいない点など、課題になっている。
- 村では、民間の皆さんにも参加いただくゼロカーボン推進プロジェクト会議を開催し、多くの関係者の協力によって事業が進められている。こうした会議の開催状況や推進体制を資料の中で示すのはどうか。
- 今年度の赤とんぼフェスティバルで行ったアンケートの結果によると、(株)いくさかてらすの認知度70%超えは非常に高い数字であり、小さな村だからこそできる「顔の見える広報」や「地区を回る発信」が、一定の効果を上げている。今後はこの信頼を基盤にPPA事業をより進捗させるように工夫するのはどうか。
- 広報資料は文字による説明を減らし、子供や高齢者でも一目でメリットがわかるようにする、あるいは実際の「家計簿」を公開して電気代の変化を可視化するなどの工夫を凝らすのはどうか。
- 停電時に蓄電池やV2Hが役立ったという住民の体験談を広報に取り入れることで、脱炭素だけでなく「安心・安全」の観点からも事業の価値を伝えるよう工夫するのはどうか。
- EVが普及すると、これまでガソリンスタンドが担ってきた「人が集まり、会話が生まれる場」が、家庭充電の普及で失われる懸念がある。EV時代に合った新しいコミュニティの場や仕組みをどう作るかを考える必要があるのではないか。

- 薪ストーブに関して、高齢化が進む村では、薪の調達や管理が負担となる。シルバー人材センターや地域おこし協力隊と連携した供給体制や、導入後のアフターケアも村全体の課題となっていくと思う。
- 脱炭素の取り組みは、行政だけで進められるものではなく、村民の皆さん一人ひとりの選択と参加があってこそ前に進むものである。